



Disaster assistance  
in Nepal



Aug30th ~ Sep14th, 2016

あたりまえがあたりまえである

## 有難さ



蛇口をひねると水が出る。  
冷蔵庫開くとたくさんの食材が並んでいる。  
家に帰るとあたたかい布団がある。

そんなあたりまえの毎日を過ごしていると、その本当の有難みを忘れてしまう。

2011年3月11日 東日本大震災

2015年4月25日 ネパール地震

2016年4月16日 熊本地震

目の前のあたりまえが、急に音を立てて崩れ去った。

あたりまえにいた人たちが  
あたりまえにあったものが  
あたりまえの日々の生活が

なくなった時

人は初めてそれが有ることの難しさに気付く。

ネパールはヒマラヤ山脈からの雪解け水により、水が豊富な国。この村でも 100 年以上湧き水が止まることなく湧いていた。水場は村に一個だが、困ることはなかった。

震災後、その水が枯れた。家を失い、職を失い、それでも懸命に生きる村人にとって、毎日の生活に欠かせない水がなくなることがどれほど厳しいか。

そこから水が出るのが当たり前だった場所からはもう水が出ない。村人皆で地下を掘ってみた。水は少し出たがまたすぐに枯れてしまった。きっとお金があれば、エンジニアがいれば、またここから水が出るはず！！今でも村人たちはそう信じている。

私たちに今、何ができるのか。何をすべきで、何をすべきでないのか。学生として、この人たちのためにできることがあるのか。それを見つけるために私たちはネパールの地に渡った。

今回の下見キャンプは私たちの始まりの一步。ワークキャンプの可能性を信じて、きっと何かを変えられると信じて。

#### <FIWC 九州ネパール震災支援キャンプ発足の経緯>

2015 年 4 月 25 日、マグニチュード 7.8 の大地震がネパールを襲った。9,000 人近い死者を出し、約 76 万棟の建物が被害を受けるという大災害となった。その被害総額は 70 億ドルとも言われている。ネパールやインド北部は元来地震が多い地域であるものの、建物はレンガ積みの耐震性のない脆弱な構造のものが多く、また山岳地帯では地すべりも発生しやすいなどといった環境的要因も被害の拡大へとつながった。国土の多くが山岳地帯であり、また国家としての基盤も脆弱であったことから震災後の復興活動は困難をきわめている。この震災を機に、2002 年からワークキャンプ通じて 10 年以上にわたってネパールと関わってきた FIWC 関東は、震災復興支援ワークキャンプという新たな形で、ネパールに介入していくこととなり、震災から約 1 年間の準備期間を経て、2016 年 3 月に甚大な被害を受けた地域の 1 つであるシンドバルチョーク群のメールダラ村で震災支援ワークキャンプを始めた。

ネパールという異国の土地で「震災支援」という活動を行う。それがどういうことなのか、そして私たちは何ができるのか、その限界はどこか、さまざまな状況に出くわし、そのたび

に悩み考え模索をする日々が続いた。(現在でもそれは続いている)

FIWC はこれまで海外でのワークキャンプ活動だけではなく、阪神淡路大震災や東日本大震災など、国内での震災に関する支援活動は行ってきた。しかし、ネパールで行うそれは全くの別ものであると思い知らされた。現地に渡り、私たちができることは何もなかった。来ないエンジニアを待ち続け、現地の水の状況や事情は日々変わる。行う予定だった水のワークは全く進むことなく、震災支援の厳しさ、現地エンジニアの協力の重要性、自分たちの無力さを痛感した。もう一年しっかりと準備をして、来年もう一度出直そう。そう決めて、メンバーは現地を後にした。しかし、F I W C 関東の震災支援キャンプは2016年3月をもって途絶えた。原因は渡航できる現役キャンパーの不在。

そこで今回、2016年春のFIWC 関東によるネパールキャンプに参加していたF I W C 九州メンバーの一人が、九州でのキャンプ立ち上げ、メンバー募集を行い、下見キャンプの実施にまで至った。今回F I W C 九州としては初めてのネパールへの渡航。現地ではメールダラ村で教育支援を続けている学生団体T A P、現地コーディネーターみなちゃん、F I W C 関東ネパールキャンプで通訳を担当していたハリーさん、現地エンジニアのルナさん等たくさんの方々の協力を得て活動を行った。



## 重要人物

うみ (TAP リーダー)

この水問題を FIWC に提案してくれた東京の大学三年生！TAP という学生団体のリーダーにして、ネパールで教育問題に取り組んでいる。ネパールには数え切れない程行っていて、ネパール大好きな女子大生！春キャンプもうみ含め TAP と一緒にプロジェクトを行う。



みなちゃん (通訳・コーディネーター)

キャンプ前からエンジニア探しや情報提供など、たくさんお世話をしてくれている人。ネパール住在でチャップにも何度も通い、村人とも仲良しな 26 歳！日本語もペラペラで、私たちのことを常に心配してくれて、キャンプには欠かせない存在！



ハリーさん (通訳)

村滞在中、通訳をしてくれるだけでなく私たちの安全やプロジェクトのために尽力してくれ、大変お世話になった方。元々 FIWC 関東のネパールキャンプにも通訳として参加したこともあり、ワークキャンプのことをよく理解してくれている。

日本語ペラペラ、そして何よりハリーさんの作る日本食が最高に美味しい！



ルナさん（エンジニア）

本名マラウナさん。今回のウォーターシステムのプロジェクトの設計等に協力いただいたエンジニアさん。私たちと一緒に村に滞在して、水問題の調査はもちろん、村人たちとコミュニケーションを取りながら、現地に根付いた調査をしてくれ、頼りになる方。

普段からボランティアや社会貢献活動にエンジニアとして活動して信頼できる人。



ランバハードユルニョパニさん（カリカ村長）

9 つもの地域からなるカリカ村の村長であるため毎日忙しい方。しかし、私たちの話にしっかり耳を傾けてくれ、理解もあり、温かく迎えてくれた。



チットラドーチカルキさん（チャップリーダー）

チャップという地域のリーダー。優しさと大人なかつこよさを兼ね備える方。私たちにもいつも親切に接してくれます。村人たちからの信頼も厚く、みんなから愛される存在。



ノルブータマンさん（カリカー4リーダー）

チャップも属する地区代表。村人たちからの信頼も厚く、いつも率先してみんなを引っ張りまとめる、かっこいいリーダー。



マミー（ホームステイ先のママ）

我が子のように接してくれたマミー。毎日美味しいけどすごい辛さのご飯を準備してくれて、その上畑仕事もこなす強いママ。英語が全く通じないけど、一番可愛がってくれているのが伝わってくる頼もしいママ！！



## スケジュール inJAPAN

- 4/24~5/8 キャンパー募集
- 5/19 第一回事前 MTG@あすみん
- 5/22 第二回事前 MTG@Skype
- 6/8 第三回事前 MTG@ごゆい宅 & Skype
- 6/14 第四回事前 MTG@あすみん
- 6/26 第五回事前 MTG@びおとーぷ
- 7/7 第六回事前 MTG@びおとーぷ
- 7/21 第七回事前 MTG@びおとーぷ
- 8/7 第八回事前 MTG@だいきゅんさん宅



## スケジュール inNEPAL [カッコ内はネパールの祭・祝日]

8月29日	Mon	くるみ日本出発	
30日	Tue	くるみ、ゆうカトマンズ着	カトマンズ滞在
31日	Wed	カトマンズ散策	
9月1日	Thu	JICAの現場視察@バクタプール	
2日	Fri	通訳のハリーさん、うみと合流	村滞在
3日	Sat	村へ移動、水源等調査	
4日	Sun	村人、エンジニアと MTG。小学校視察。[ティージ]	
5日	Mon	仮設小学校視察。村調査	カトマンズ滞在
6日	Tue	村調査 [パンチャミー]	
7日	Wed	他 NGO のセレモニーのため小学校へ、村調査	
8日	Thu	村長と面会、チソパニ調査	カトマンズ滞在
9日	Fri	他 NGO の MTG に参加、村調査	
10日	Sat	他 NGO の MTG に参加、Japanese Festival	
11日	Sun	カトマンズへ戻る	カトマンズ滞在
12日	Mon	カトマンズ散策、ハリーさんと面会	
13日	Tue	エンジニアと MTG、カトマンズ出発	
14日	Wed	ゆう日本到着、くるみフィリピン到着	

9月3日～9月11日ハリーさんと共に村に滞在。

9月3日～9月5日うみも村に滞在し、その後カトマンズに戻った。

9月3日～9月4日エンジニア、みなちゃん村に滞在。

9月13日のエンジニアと MTG@カトマンズは、うみ、みなちゃんと共に出席した。

*Dharapani Dvasthan Drinking  
Water Supply Project  
Chapa , Kalika-4 , Sindhupalchok , Nepal*





## <ワーク地>

◎チャップ

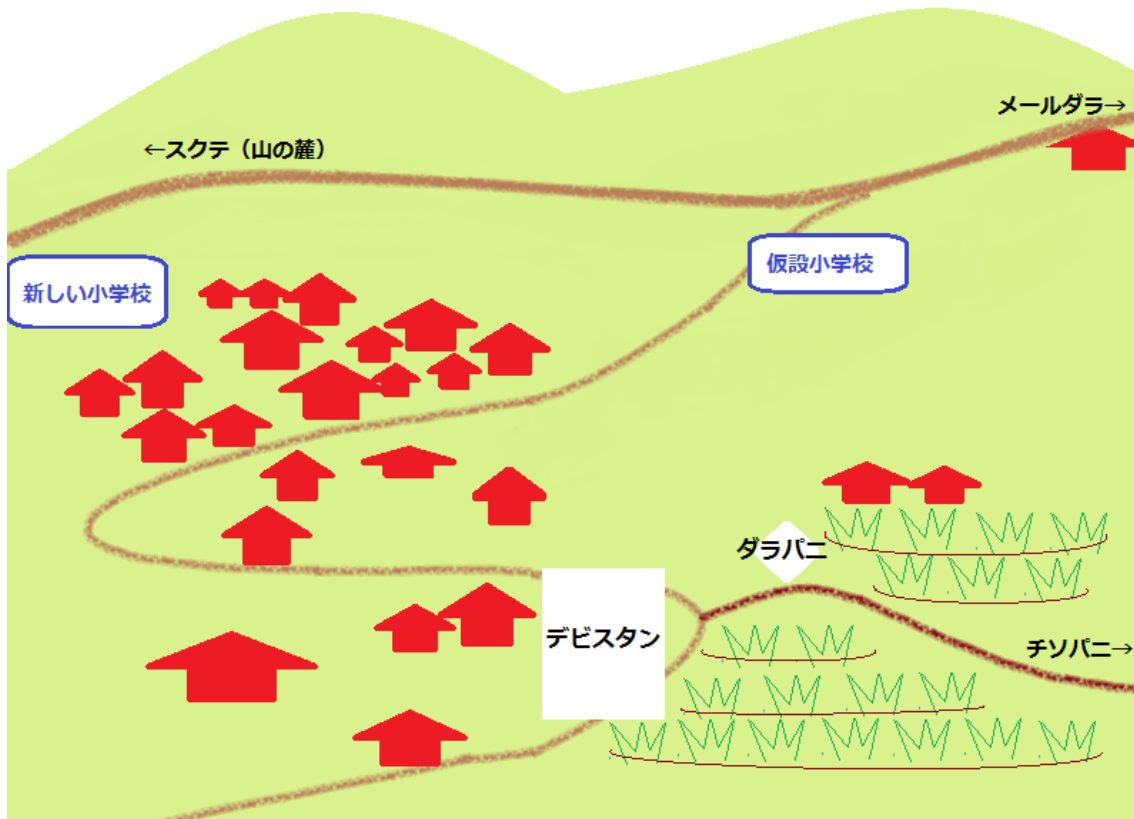
世帯数：49

人口：245人

※内訳 チャップ中心：43世帯 215人

チソパニ：6世帯 30人

シンドゥパルチョーク群カリカ村は9つの地区に分かれており、その内の4の地区にチャップという地域は属している。その中でも中心とチソパニという小さな地区に分かれる。地震前は63世帯住んでいたが、地震の被害により親戚の家などに引っ越す家族が多く減少した。



【図1：カリカ村4、チャップ】

(備考) スクテ：山の麓にあり、栄えている村

メールダラ：同じカリカ村4に属しており、栄えている。メールダラが大きいため、チャップも総称してメールダラと呼ばれることもある。

## 〈現状〉

—チャップ—

このカリカ村4のチャップという地区ではデビスタン (Devisthan)〔図1参照〕と呼ばれる水場があり、水も豊富で100年以上使われていた。しかし2015年ネパール大地震の影響により水が枯渇し、村人は生活に困窮。乾季の間には使い続けてきたこのデビスタンに水がないため、歩いて5分のところにあるダラパニ (Dharapani)〔図1参照〕と呼ばれる水源からデビスタンの水場までパイプをつなげ水を仮タンク〔写真3参照〕にひいてきていた。ダラパニの水は震災後も、乾季でも枯れることがなかったのだ。しかし、ダラパニは水量が十分ではないので村人の生活を賄うことはできず、水浴びや生活に必要な水などは2km下の川まで汲みに行っていた。



【写真1：乾季のデビスタン】



【写真2：ダラパニ】

乾季のあいだ7か月デビスタンから水がでることはなく、水を節約する日々であったが、8月に入り雨季になるとデビスタンから再び水が出始めもとの生活を取り戻した。しかし、地震の影響による地層のずれが原因で水が出なくなったと考えられており、現在水が出ているのは雨季のためである。そのため5か月の雨季が終わり乾季になるとでなくなる可能性が大きい。(ネパールでは5月～9月が雨季、10月～4月は乾季である。)



右手前に見える黒い物が、乾季に使われていた仮タンク。

【写真3：水が出ているデビスタン（村人の水浴び）】

—チソパニ（小さな集落）—

チソパニ（デビスタンから歩いて10分）にもいくつか水源はあったようだが、デビスタン同様に多くが地震の影響で枯れた。また雨季は出ても乾季は枯れるところも多く、水不足に悩まされている。ダラパニからパイプを引いていたが、途中破損していて、十分に供給できていない。〔写真5参照〕



【写真4：チソパニの風景】



【写真5：ダラパニからチソパニに繋がるパイプ】

## <2017 年春キャンプで行うワーク内容>

ー現在のデビスタンのタンク問題点ー

◎乾季になり水が枯渇する可能性が高い→（１）、（２）

◎タンクの下部から水が漏れており、水をためておくことができない→（３）、

ープロジェクト案ー

### （１）水源ダラパニの水量増幅工事

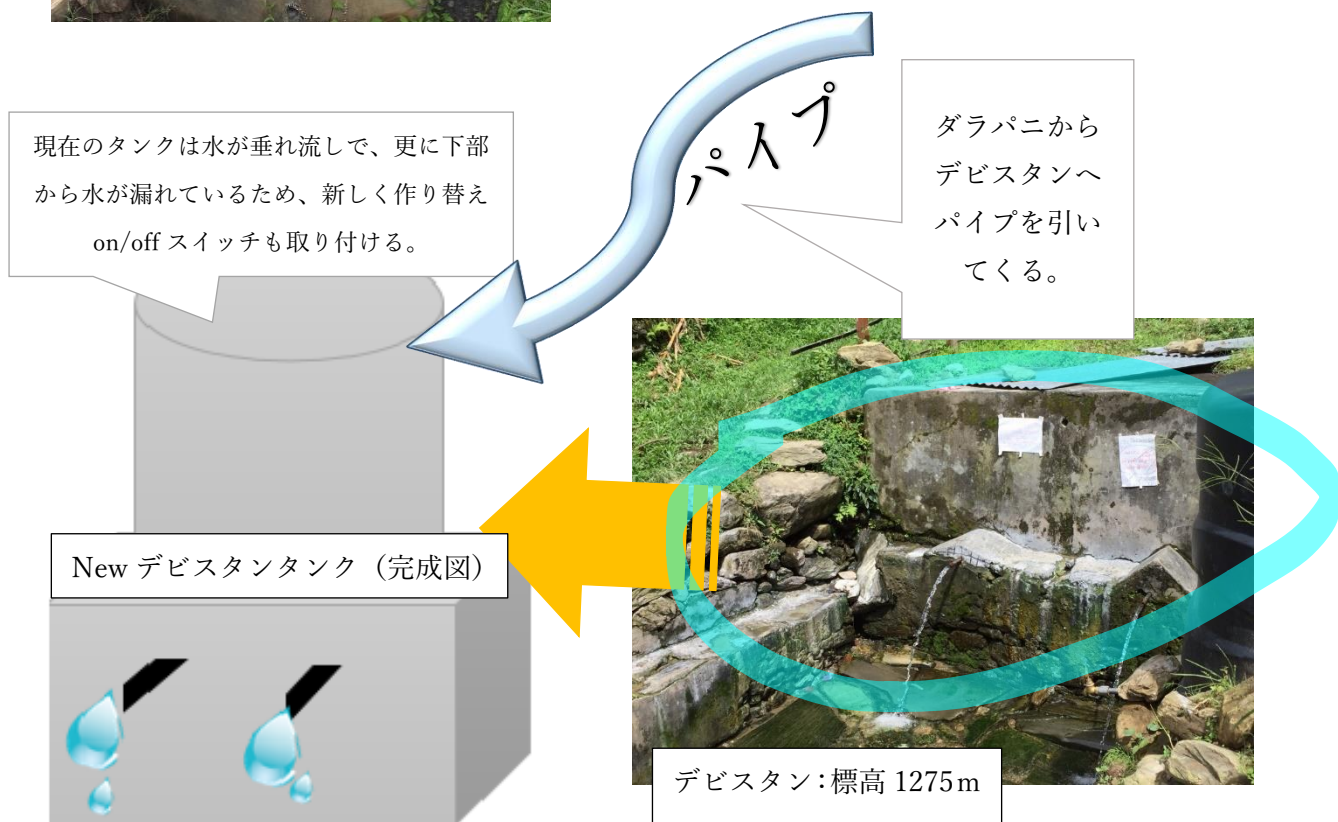
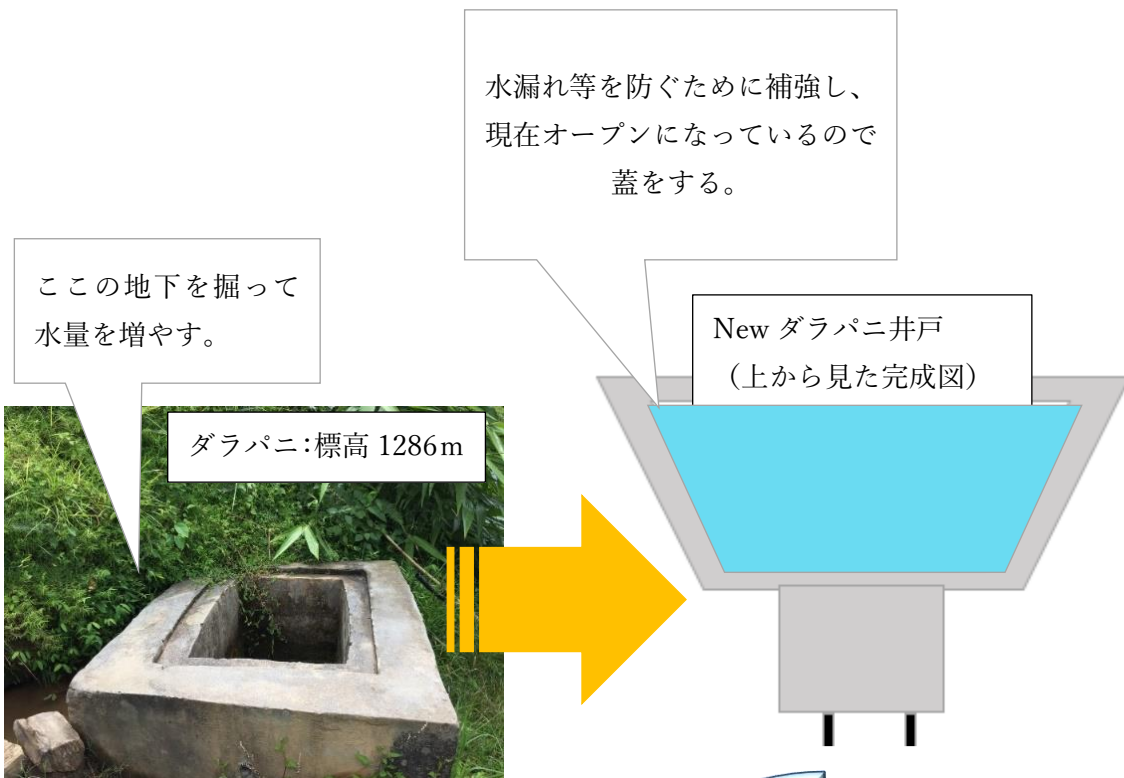
地震後も枯渇することのなかった水源であるが、水量が十分ではない。その改善として水量を確保するために、地下を掘り水量を増やし、水漏れを防ぐために井戸の補強を行う

### （２）ダラパニ→デビスタンの接続

ダラパニからデビスタンまでパイプをつなぎ、デビスタンの水が枯れないように、ダラパニの水もデビスタンに貯水できるようにする。

### （３）デビスタンのタンク補強工事

デビスタンに新しいセメントタンクをつくり、水の貯蓄能力を高める。  
また夜間の水の垂れ流し防止のため、水の出し止めの ON/OFF スイッチをタンクにと取り付ける。



～追加プロジェクト～

ー現在のチソパニ問題点ー

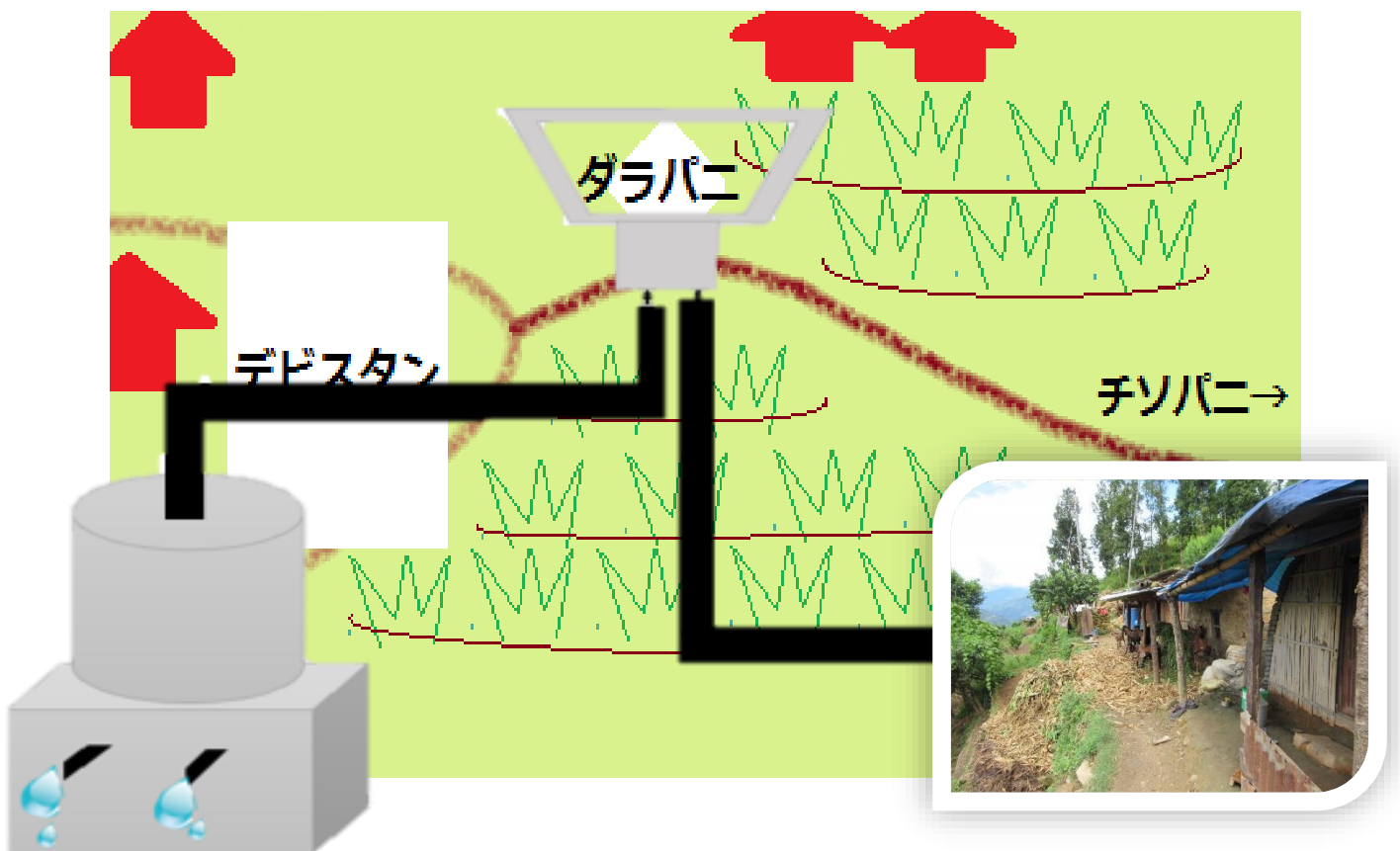
◎集落の近くで水を確保することができない（特に乾季）

ープロジェクト案ー

上記の（１）で行うダラパニの補強された井戸からチソパニまでパイプをつなぐ。

【補足】チソパニの中でも 2 つの集落に分かれる。両集落の人も他の水源からパイプをひいているが、1 つの集落の方ではパイプやタンクが壊れており水はほとんど届いていない。よって、今回は水不足に困っている方の集落の近くにパイプを引く。

〈ワーク全体図〉



以上のワークを行うことで、乾季の間にも十分な水量を確保でき、村人に供給できるようにする。

### <ワーク期間>

1 か月半（うちキャンパー滞在期間：約3週間）

・・・雨季は道も不安定でトラック等が通れないなどたくさんの問題が起こると考えられるので、ワークは乾季の3月に行う。

### <費用>

Rs.584,539

（※エンジニア見積書上）

【内訳】 （単位：Rs.） ※1 ルピー≒1円

資材費： 247,694

労働費： 205,142

道の舗装費：2368 （資材を運ぶために道を整える必要がある）

輸送費： 22,000

技術者： 795,00

予備費： 27,835

---

計 584,539

※予備費：（全予算合計）Rs.556,704×0.05=Rs.27,835

### 【備考】

現時点でエンジニアにプロジェクト設計をしてもらっているが、あくまでアウトラインでありこれから村で手に入る資材（竹、石等）は買わずに村で集める。そのためその分のお金は予算から引くことができる。よって見積もりから多少変更する場合がある。

労働費に関してもエンジニアの通常プロジェクトと同様に設計してもらっているため現時点ではワークキャンプであるということが考慮されていない。労働費は村人との交渉次第となっており、ワークキャンプの形態である村人にボランティアとして参加してもらう形が好ましい。その説明は村人にもしており、詳細はこれから決めていく。その際、日本人メンバーで話し合い、間に現地コーディネーターであるみなちゃんに入ってもらい話を進めていく。

ワーク地であるチャップはカリカ村の中の4の地区であり、カリカー4と表すことができる。それぞれの地域、地区はリーダーによってまとめられている。カリカー4のリーダーはチャップに住んでおり、カリカー4とチャップのリーダーも含めた村人とのミーティングにも私たちは参加している。

しかし、カリカ村の村長にはチャップで活動することを相談したわけでもなく了承を得ていなかった。そこで、今回の滞在中に村長に会いに行き、春に行うワークの概要、ワークを行うときには日本人が大勢チャップに滞在すること、FIWC が工事資金の寄付をメインにしている団体ではなく、ともに働くワークキャンプをする団体であることを確認した。村長からは他にこのチャップで Water System のワークを行おうとしている団体はいないためチャップでのプロジェクトに許可を得た。ひとつ、きちんとそのことを文字で著した文書を村長あてに送るということを条件にだされたが、それは今回の協力団体である TAP のうみが引き受けた。同時に工事費のカウンターパートの相談も行い、村の予算から少しであるがワーク費にあててもらふことを約束してもらった。カリカ村全体に国から 1 年の予算として Rs. 6 5 0 万が 2 月におりにることになっており、それを 9 つの地区で割り振ることになっている。その内の 4 の地区に割り振られた予算の中からインフラ整備にかける予算もリーダーらの話し合いによって決められる。そのインフラ整備予算の中からこのワーク費の一部を負担してもらえるように交渉している。

#### 【資金源について】

冒頭でも述べたように、このキャンプは FIWC 関東で始まった震災支援であり、FIWC 関東のネパールキャンプ OB・OG を中心とした方々より震災支援用寄付金が集まっている。そのため、必要なワーク費の資金としてこの寄付金を使う。今回の下見キャンプでもワークに必要な費用や通訳代をこの寄付金から出している。FIWC 関東では元々 644,564 円の寄付金が集まっており、下見キャンプで Rs.65,000 使用したので、残りの 575,470 円（2016 年 10 月 20 日現在）をワーク費含む本キャンプ費にあてる。〔下記会計報告参照〕



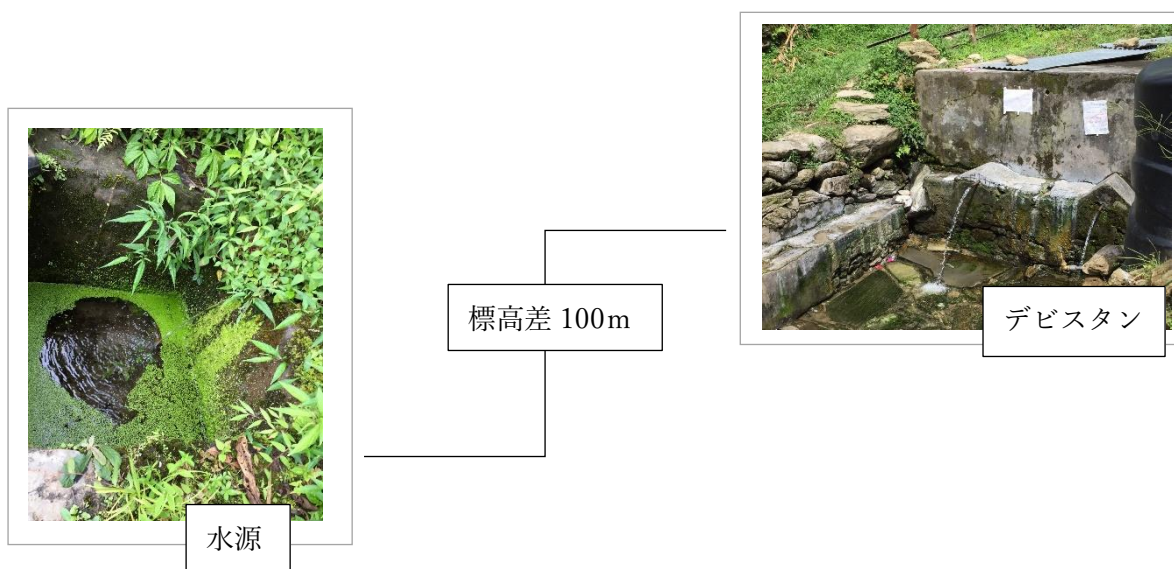
# 他の調査

今回決定したワークの他にもチャップの水源を調査していくうえで候補案が2つ挙げた。

## ① リフティングシステム

今回ワークを行うデビスタンから歩いて1km下にある水源があり、そこから電気をつけて水を持ってくるという案。

水源は水質もよく水量も十分であるが、デビスタンとその水源とは標高差が100mあり、水源の方が下であるために自然の力では水が上に上がることができないのである。



### 【問題点】

1. 電気の機械を用いるワークであるため、ワーク費がRs.400万～500万と高額であること
2. 電気であるため壊れやすいので、メンテナンス費がかかること
3. 機械は必ず管理する人が必要となり、毎日必ず村人を一人は管理者として機械のところに行かなければならない。(その村人を雇う形にするのか、村全体で担当を決め回すのか、決めるときに問題が多い)

以上のことから今回FIWCはこのワークを行わないことにした。

② ボーリング調査をし、井戸を掘り起こす

別のエンジニアに依頼し、デビスタンの水源に水があるのかを掘って調査し、あれば掘り起こし水が再びできるようにする。

今回実際にチャップにキャンパーが行くまでに現地調査をコーディネーターであるみなちゃんに頼んでいた。その際に、エンジニア探しを依頼しており、みなちゃんが数名のエンジニアと村に状況を確認しに行ってくれていた。みなちゃんがエンジニア候補に入れていた人によれば、まずデビスタンの水源をボーリング調査し、水があるか確認する。そして水があれば深く掘り、再び水がでるようになるということであった。

**【問題点】**

1. 調査費含め 80 万円であること
2. 水がある可能性は低く、なかった場合の対策案がない

以上のことからこのワークも行わないことにした。

**《今回のエンジニア依頼の経緯》**

今回依頼することになったルナさん[重要人物参照]

出国前の事前ミーティングでは、みなちゃんに探してもらったエンジニアに依頼するつもりでいた。しかし村へ移動する前に協力団体である TAP のうみが教育プロジェクトでお世話になっているネパールのある会社の社長にこのルナさんを紹介してもらったことで今回依頼することになった。この社長さんは会社の利益のほとんどをボランティアなどの慈善活動に使っており、このエンジニアのルナさんは社長のもとで NGO などの依頼を受けたりしている方である。うみがチャップの村の状況を説明したところ、下見と一緒に村へ行ってくれるということになりともに調査をしてもらった。この下見次第で機械を使って水がある場所を調べたほうがよいのならば

Rs.5 万で私たちの滞在中に調べてくれるという話であった。しかし、村に行き実際に調べたところ機械を使う必要はなく春のワークの案も出してくれた。

実際に一緒に下見についてきてくれたこと、値段が他のエンジニアの案よりも安いことやキャンパーのくるみ、ゆう、うみが直接会い、話を聞いたことからルナさんに依頼することを決定した。



## 春キャンプについて



- 期間：2017年3月初旬～ 約3週間
- 場所：ネパール、シンドューパルチョーク郡、カリカ村-4、チャップ  
(chapa, kakika-4, Sindhupalchok, Nepal)
- 目的：2015年ネパール大地震による被害の震災支援
- ワーク：地震の被害により枯れていた井戸の水が乾季、雨季関係なく村人に供給されるようにするため、Water System の改善
- キャンパー人数：15～20人（予定）
- 滞在場所：村の新しい小学校（地震後に NGO 団体の支援により新しく建設。5月に一度すぐそばががけ崩れを起こしたため子供たちはまだ仮設の小学校を使っている。滞在に関しては特に問題はない。



教室の窓、ドアは施錠可能。室内に扇風機、電気あり。トイレ、水タンクあり。

【←写真：小学校の外見】



【写真：教室の中→】

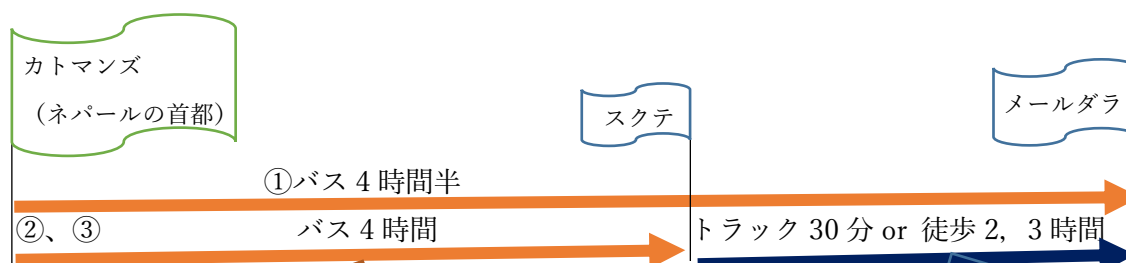
### 《安全対策》

歩いて 10 分の隣の地区メールダラに薬屋さんあり。軽い病気ならばクリニックがあるので見てもらうこともできる。その他にも近くの町デュリケル、バネバには大きな病院もある。

### ○村までのアクセス

主な行き方は 3 つ。

- ①メールダラ行きのバスに乗る
- ②スクテ行きのバスに乗り、スクテからトラックに乗り換える。
- ③スクテ行きのバスに乗り、スクテから歩いていく。



# 生活状況

・・・村での滞在は村人の家にホームステイ。ステイ先の家族の性はカルキであり、カーストとしてはチェトリ。



AM5:00 家族起床

6:00 中高生は学校へ

近くに政府が建てた学校があり、朝の6時から9時まで中高生が授業をし、同じ校舎を使って交代制で10時から1時まで小学生が授業をする。

7:00 ゆう、くるみ起床



朝起きたらまずチャイを飲んで体を温めます。ネパール人にとってのチャイは日本人にとってのお茶と同じです。

8:00 茶飲み小屋へ



茶飲み小屋

9:30 朝食  
小学生は学校へ



13:00 軽食

15:00 家族とともに畑へ

17:00 おやつ

17:30 水浴び

19:30 晩ご飯

20:30 家族団らん・TV鑑賞

21:00 就寝



### ネパールごはん

ネパールの家庭料理はダルバート。日本でいう定食のようなものでダルが豆、バートが米飯を表しており、それにカレー味の野菜（タルカリ）、漬物（アツァール）のセット！満足ワンプレートのごはん！他にも焼きそばのようなチャウメンなどもあれば日本にはない珍しいお菓子などもたくさん！ネパール料理は少し辛いので辛いのが苦手な人はお水が必須。



### 気になる身の回りの生活！

#### ◎トイレ

←日本の和式トイレと同じ。ただ水洗ではないので中に水がためてあるバケツがあり、その水を使って自分で流す。トイレトペーパーを流すと詰まってしまうのでゴミ袋をつくり流さずに捨てるようにする。

#### ◎水浴び（ムハウニ）、洗濯（ルガ）

雨季のあいだは水の出ているデビスタンの水場で水浴びをする。外なので服を着たまま行く。村人は伝統衣装のサリーの下に着る肌着のようなものを着て行く。大抵ついでに洗濯もしてしまう。晴れている日はよいが、雨の日などは少し寒いので日がでていっているうちにしてしまうことが大切である。

乾季の水がない時期は2 km先にある川まで行き、水浴び、洗濯を行う。洗濯は手洗いで石鹸をこすりつけて洗う。



## Japanese Festival

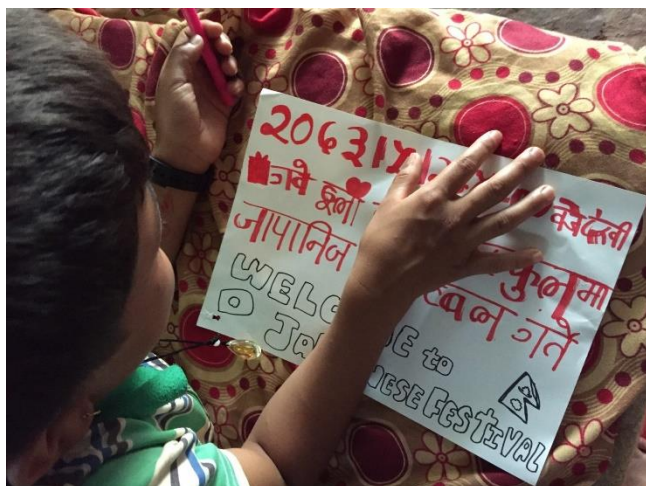
(ジャパニーズフェスティバル)

9月10日滞在地の仮設小学校にてジャパニーズフェスティバルと称し、日本語教室を開催。

1. 日本語の単語を覚えよう！
2. 日本語のうた～365日の紙飛行機



前日に村人が必ず1日に1回は訪れるデビスタンにチラシを貼り、子供たち、また村の大人たちに広めてもらい、告知した。



集まったのは村の小学校に通う子供たち15人程度。

今回使わせてもらった小学校は、地震後に作られた仮設の小学校である。トタン板の屋根であり教室を分ける仕切りがあるだけで壁はない。春キャンプで滞在する予定の新しい小学校を建設したが前述のとおりがけ崩れが起きたことで子供たちには危険であると判断し、仮設の小学校を使い続けている。学校使用に關し

ては校長先生に許可をいただいた。



【↑仮設小学校】

【←新しい小学校の近くのがけ崩れの様子】

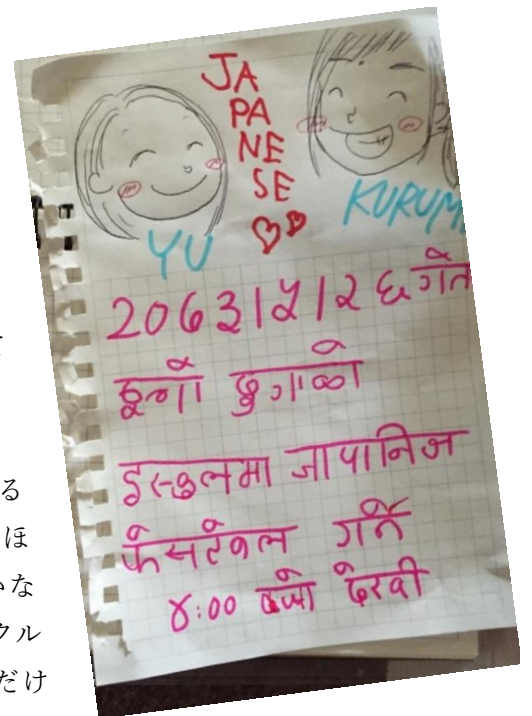
1. 日本語の単語と、ネパール語の表記を画用紙にかき子供たちに見せながら復唱させた。  
(ありがとう、ぱり好いとーと、おいしい等)
2. AKB48 の『365 日の紙飛行機』を流し、ネパール語で日本語歌詞の読み方を書き、みんなで歌った。その後折り紙で実際に紙飛行機をつくり・飛ばして遊んだ。

ネパール表記に関しては、通訳のハリーさんや子供たちに教えてもらいながら読めるかの確認を行って用意した。

画用紙等に関しては日本から持参していたものを使った。

◎出国前から計画していたわけではなく、村の状況、スケジュールを考慮したうえで急遽行うことにした。子どもたちも楽しみにしており、成功であった。

なお、この日はカトマンズで購入した民族衣装のクルタを着て行った。



#### ※クルタ

一般的にはサリーが有名であるが、着るのが非常に面倒で今はほとんどお年寄りの方しか着ていない。サリーの簡易バージョンのクルタはズボンと上から一枚着るだけであるので現在は人気である。





## 会計報告 【単位：ルピー、Rs.】

換金 (8/31) ¥50,000→Rs.51,620 [レート 1.324]

(9/2) ¥60,000→Rs.60,960 [レート 1.16]

－村－



みなちゃん謝金※	20,000
ハリーさん通訳代※	25,200 (2,800×9日)
エンジニア (ルナさん) 謝金※	25,000 (うみが立て替えたので合計には含めない)
宿泊費@マミー宅	4,000 (500×8日)
リチャージ	1,000
交通費	1,620
食費@マミー	10,845+1,190 (野菜とランチ)
チャイやお菓子	1,285
その他	805
合計	65,945

(参考)

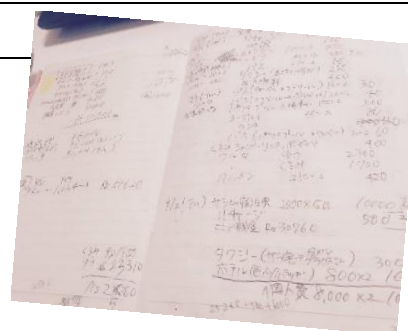
交通費 カトマンズースクテ (麓の町) のバス Rs.140

スクテーチャップのトラック Rs.100

チャップーカトマンズのバス Rs.160

寝袋レンタル 800 (Rs.80×10日)

－カトマンズー



宿泊費@カトマンズ	14,000 (サラさん宅) 1,600 (ホテル)
交通費	1,020
食費	1,245
雑費	550
個人費	28,220
合計	46,635

※印は FIWC 関東の寄付金を使用した。

－航空券代－

福岡ーカトマンズ 片道約 3万円

－VISA－

¥3,000 (15日間)

## 感想（くるみ）

初めてのネパール。初めての震災支援。今回村の情報をまた聞きにまた聞きでミーティングを重ね、詳細がよくわからず進んでいたネパールキャンプ。実際にネパールについたときには「ここがネパールか。」私の中で靄がかかっていた景色が次第に色をつけはじめました。空港についてステイ先の家に行くまでのタクシーから町の様子を見て、どこか少しなつかしさを感じました。私の中でフィリピン、タイの景色がよぎったからです。「発展途上国」「アジア」これらのキーワードにネパールはひっかかりました。発展途上国だからなつかしさを感じる、そんなこと本当はいけないことかもしれないけれど、今回初めてのネパールに親しみを感じるひとつのきっかけになりました。

ネパールの景観は本当にきれいで色彩にこだわっていることが伝わってきました。ヒンドゥー教では神様のところにお参りしたときには額にティカというものをつけます。そのお粉も色鮮やかで色彩感覚と宗教の関係も気になったりといろいろ調べたいことばかりで忙しいネパール滞在でした。

ただでさえきれいなネパールの景観、けれどこれも地震で家屋も崩壊した状況。それに加え、村に行っても気になることがありました。村に行くとトタン屋根の仮設住居に村人は住んでいました。カトマンズよりも貧しいことは想像していて、私もフィリピンキャンプで貧しい人の生活を受け入れることにいいのか悪いのか慣れていたため、村でも「そういうもの」と受け入れてしまいました。地震で壊れる前の家や村のこともなにも知らない私はこれがこの村の生活なんだと最初になんの疑問も待たずに入ってしまった。だから、元からあったものがなくなる大変さに最初気づくことができませんでした。村人の話をきいていくうちに少しずつそのことに気づきました。そうすると地震前の村の様子を知らずに震災支援にきたよということが恥ずかしく感じるようになりました。そこで震災支援というものをもう一回考えることになりました。考えたからといって答えがでたわけではないけれど、ネパールにいるということについてももう一回立ち返りました。村人との生活の受け入れ方。まだ自分の中で昇華することができていないけれど、春のネパールキャンプに対しての想いが少し変わったことには間違いがないと思います。

今回、ネパールキャンプの話がもちあがったのは本当に人と人との繋がりによるものです。元はFIWC九州にネパールキャンプはなく、TAPがFIWC関東に声をかけ、そこから一度はキャンプを行ったものの、うまくいかず、このまま終わるわけにはいかないとどうにか次につなげるためにFIWC九州にこのキャンプが受け継がれました。一度できた人の繋がりを無理やりに断ち切ることはできない、そんな思いが少なからずみんなの胸にあったはず。この繋がりをつなげることで、それが今回の隠されたテーマであったと思います。うまくつなげられたかはわからないけれど、次の春キャンプにすべてがかかっています。きっとワークが終わり、キャンプも無事に終わって帰国するときにはこの繋がりがどう変わったのか、わかるのであろうと思います。だから、少しでも参加したいと思っている人には絶対に参加してほしいです。一緒にこの繋がりの変化をみていきたい、それが私の想いです。

## 感想（ゆう）

まず、このネパール震災支援キャンプに関わってくださっている方々に感謝します。ありがとうございます。また、FIWCに関わってきた全ての人に、私が今回ネパール震災支援キャンプの下見に行けたことに、そして私が今ここにいることに感謝したい。

去年の4月、私は大学生になり、入学式の日FIのビラを受け取った。見た瞬間、これやりたい！と思い、気付けばフィリピンキャンプに昨年度2回参加し、今夏はチャイナキャンプとネパールキャンプに参加していた。ふと振り返れば、怒涛の1年半である。我ながら笑ってしまう。FIでは何をしても楽しかった、結局ワークキャンプが楽しくて仕方ないからここまでがむしゃらにやってきた。と言いたいところだが、実際は違った。実際は違う。楽しい事ばかりじゃない、泣きたいことだって、つらいことだってたくさんあった。それでも私がFIで活動に参加し続けてきて、これからもFIに関わり続けたいと思う理由がこのネパールキャンプで見つかった。この1年半、私が感じ、思い、考えたことを残したいと思う。まだFIに1年半しか関わっておらず、偉そうなことを言える立場ではないが、聞いてほしい。

初めてのフィリピン下見キャンプはワクワクドキドキで、本キャンプを終えてようやくワークキャンプの凄さを実感した。いろんな人から数えきれないほど学び、成長したかどうかは分からないが、少なからず自分が変わったことは分かった。そして、チャイナキャンプでは“伝える”“繋げる”ことの大切さを知った。“私とあなた”の関係が繋がり、その連鎖で続いてきたのがFIWC九州のチャイナキャンプである。ワークキャンプに参加した人たちは人と人とが繋がることの偉大さを実感している人は多いのではないだろうか。

信頼関係を築くこと、“私とあなた”の関係を新たな地で作っていくことの難しさを実感したのが、このネパールキャンプであった。ネパールは宗教色が豊かで、本当に神様がいるような国で、その新鮮さに魅了された。だが、カーストの文化がまだ残っていたりするところもあり、なんだか違和感を覚えていた。今まで行ってきた場所とは違って、私は何を信じていいのかわからなくなっていた。もしかしたら、私が現地の人達と向き合うことから逃げていたのだろうか。なんだか心がすっきりしない。これが今キャンプでの私の反省点だ。

人と人とが出会い、関係を築いていくことはそう簡単ではなく、プラスに働くことばかりでもなく、マイナスに働くこともよくある。日本人同士でも、人間関係に悩み病気になる人、自ら死を選んでしまう人もいるくらいだ。だからこそ、10年以上かけて作り上げてきた“今のFIのワークキャンプ”がとてつもなく偉大なことなんだと気づいた。これまで多くの先輩たちが築き上げてきたFIWCの歴史、現地との信頼関係、ここまで繋げてきたキャンプの存在、全てに尊敬と感謝でいっぱいである。そして、今私がFIWCで活動できていること、歴史をつなぐ一人になれたことに誇りを持っている。これからはますますFIが繁栄していくことを願っている私にとって、つなげるために、キャンプに参加し役員をさ

せてもらっていることは希望である。これが、私がネパールキャンプに参加することで見つけた FI に関わり続ける理由である。

FI の活動やキャンプに参加している皆さんや興味を持ってくださっている方に、ぜひ FI に関わっていることに誇りを持って、後輩、周りの人に伝えていってほしいと思います。私はここが大好きです。FI のたくさんの方に出会えて、今このネパールキャンプまでつながっていることに心から感謝しています。本当にありがとう。

このネパール震災支援キャンプは今年度一回きりになってしまうかもしれないが、私たちが現地の人々に残せるもの、どこかで繋げていけるものがきっとあるだろう。“微力でも無力ではない”、“悩むくらいなら、まず動く”、FI で学んできたことがたくさんある。私ができることを、下見を本キャンプにつなげられるように、精一杯やっていきたいと思う。私がネパールに行けるのも、たくさんの方の思いが繋がってできた機会なのだから。

## おまけ！！ネパール首都カトマンズ滞在記！

〔8/30-9/1, 9/11：カトマンズに滞在〕

8/30 トリブバン空港着



Topic1:サラさん宅にステイ

出国前に知人にサラさんを紹介してもらい、事前に連絡を取り、カトマンズに滞在中はお家にステイさせてもらった。

ステイ中にはネパールの文化やことばを教えてください、「遠慮をすると逆にこっちもな

に困っているのかわからないし、改善のしようもないから」というのが口癖で実の娘のようにかわいがってくださった。



Topic2:JICA ネパール駐在員の本田さん

本田さんも出国前に事前の連絡をとっており、カトマンズ滞在中に JICA の駐在員の実際の現場をみせていただいた。



農業分野を専門にされており、ちょうど信州大学の農学部の学生が実習に来ていたので、一緒に現場視察をさせてもらった。



本田さんにはバシュパート等のお寺への観光に説明つきで連れて行ってもらった。至れり尽くせりで、本当にお世話になり、ありがとうございました。



### Topic3: 関東の学生団体 KIVO

カトマンズのタメルにて学生団体 KIVO と知り合いになった。最初の一言は「日本人ですか？」。

少し立ち話をして解散した。



### Topic4: 世界遺産の都市カトマンズ

とにかくお寺だらけ、少し歩けば世界遺産だらけ！

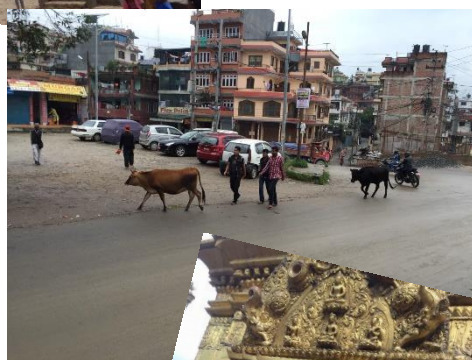
ネパールには複数の宗教が混雑しており、色々な種類のお寺が存在。



### Topic 5: 街中動物だらけ！

牛やサルが神様だから、動物を大切にする国！

牛やサル、犬に囲まれて過ごす（笑）



## FIWC とは

FIWC とは、フレンズ国際ワークキャンプ (Friends International Work Camp) の略称です。第二次世界大戦後復興のため、アメリカ・フレンズ奉仕団 (AFSC) がワークキャンプを日本で実施しました。そして、1950 年代に AFSC から独立し、FIWC が結成されました。私たちの FIWC の「フレンズ」はその精神を受け継ごうという意志から採られたものです。以来 FIWC は、国内外でワークキャンプを 60 年以上実施しています。

現在その支部は全国に広がり、FIWC 九州委員会、FIWC 関西委員会、FIWC 関東委員会、FIWC 東海委員会が活動しています。関東委員会ではフィリピンキャンプ、ネパールキャンプ、中国キャンプ、韓国キャンプがあり、それぞれで現地が抱える問題の解決に取り組んでいます。FIWC は一般市民、学生による非政府組織 (NGO) であり、いかなる政治・宗教団体とも一切関係ありません。

## Friends International Work Camp



### 【海外ワークキャンプ活動】

FIWC 九州ではフィリピン・中国の2つのキャンプがメインとなっていて、今回新しく震災支援ネパールキャンプが加わる形となります。

#### ◆ネパールキャンプ

震災支援キャンプとして関東で2015年に立ち上がり、それを今年から九州委員会が引き継ぐ形となる。ネパールの首都カトマンズ近郊メールダラ村で水問題の解決を村人と共に行いながら交流を図る。

#### ◆フィリピンキャンプ

フィリピンレイテ島タバンゴ市にて、インフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。

#### ◆中国キャンプ

中国 NGO-JIA-の桂林地区委員会と協力して、中国のハンセン病快復村の支援活動を行う。

### 【国内活動】

FIWC 九州は海外でのキャンプに加えて国内でも様々な活動を行っています。

- 耶馬溪キャンプ： 年3回大分県の耶馬溪で農業体験を行っている。
  - FP (FIWC Party)： 月1回程度、博多の「びおとーぷ」で行っている勉強会&交流会。
  - その他： 学祭、まんぱ(Monthly Party)、総会、国内合宿 など
- 詳しい活動内容はHP、FB、Twitterを参照してください。

### 【FIWC 関東委員会】

FIWC 関東は全国の委員会の中でも最も歴史が長く、ネパールキャンプはもともと関東で行われていたものなのでここでは簡単に紹介を行います。FIWC 関東ではフィリピン、中国に加えて韓国キャンプ、ネパールキャンプを行ってきました。

#### ◆フィリピンキャンプ

フィリピンレイテ島メリダ市にて、インフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。

#### ◆ネパールキャンプ

ネパール西部パルパ郡を中心に、日本人コーディネーター監督の元、インフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。

#### ◆中国キャンプ

中国 NGO-JIA-の海南・地区委員会と協力して、中国のハンセン病快復村の支援活動を行う。

#### ◆韓国キャンプ

韓国語大学ボランティア団体ハナフェと共に、韓国のハンセン病快復村の支援活動を行う。



### 【ネパールキャンプの経歴】

ネパールワークキャンプは10年以上前、はじめてFIWC 関東委員会で行われた。それ以降、主にパルパ郡で支援活動を行うOKバジと深いかかわりを持ちながら、様々なワークを行ってきた。幼児教室建設、トイレ建設、道路舗装、バイオガストイレ建設、貯水タンク建設とその活動目的は多岐にわたる。

今回は過去のつながりと別に、2015年4月のネパール大震災を契機として、ネパールキャンプOBOGを中心に、震災支援キャンプをやりたいとの声が高まり、一からの活動がスタートした。初参加ながらリーダーの後藤純輝を中心に、2015年9月に下見キャンプを実施。そこでつながった、日本のネパール教育支援学生団体TAP～Smile for Nepal～のメンバーが拠点とするメールダラ地区軸に、今年実施した震災支援ワークキャンプ活動が始まった。



2000	SCI ネパールが建設途中の学校プロジェクトを引き継ぐ形でワークを開催。
2002	SCI のもとでティミに学校建設（小野）
2003	ドゥリシェニー村で幼児教室建設（宮本）
2004	ドゥリシェニー村でトイレ建設（菅野）
2005	マオイストによる情勢悪化でキャンプが行われず。
2006	マオイストによる情勢悪化でキャンプが行われず。
2007	ドゥリシェニー村で道路舗装（高木）
2008	ネパールキャンプのホームページができる
2009	ポカリチャープ村でバイオガストイレ建設（菅野）
2010	開催されず。キャンプをなくしたくないと 2011 年開催決定。
2011	カリバンでバイオガストイレを建設（安高）
2012	ジョケティ村でバイオガストイレ建設（菅野）
2013	マイダン村で貯水タンク建設（安高） コーディネーター：関さん
2014	マウジャ村で水道建設（四十万）
2015	マイダン村貯水タンク建設（中谷）
2016	メールダラ村で水道管整備ワーク下見（後藤）※震災支援として別途立ち上げ

## 最後に . . .

このネパールキャンプを FIWC 九州で引き継ぐことになったとき、メンバーはネパールへの震災支援としてできることがあるのならばしたいという思い、この繋がりをここで断つわけにはいかないという責任感、どうにか成功させる手段があるのではないかと思索する頭、いろいろな思いを持って立ち上がりました。

実際に下見に行ったのはくるみ、ゆう二人ですが、それまでには現地の情報が少ないなか国内でメンバー全員幾度もミーティングを重ねてきました。話が進んだかと思いきや、また他の情報によりその話は頓挫し、紆余曲折を繰り返してきました。現地との連絡をつづけ、時にはワーク費が何百万円もするという話もあがり、学生団体の私たちができる規模のワークではない、もうこの今回のワークは行えないのではないかと絶望に暮れるときもありました。

しかし、今回実際に下見に行き、エンジニアとも話し合い、村人たちの状況も把握し、やっと希望が見えてきました。やっと、私たちの当初の思いが通じる可能性が見えてきました。

絶対にこのワークを成功させたい。生活するうえで大切な水がいつでも手に入る、そんな村にしたい。そして、地震後でなにかもが少なくなった村だけど、活気を取り戻してほしい。

それが私たちメンバーの想いです。この繋がりをつなげたい、カタチにしたい。それだけです。

私たちとその繋がりと一緒に見届けてくれるひと、大募集します。

## 新メンバー募集

ネパールに興味がある、  
震災支援がしたい、ボラ  
ンティアがしてみたい、興  
味をもつ入り口は人それ  
ぞれ

条件：最後までやり  
遂げる意思のある  
人



## キャンパー紹介

### くるみ(リーダー)



### ゆう



ミーティングメンバー  
からそれぞれの紹介

ゆる〜く、まったり〜り、でも本当は誰よりも熱い我がらが自慢のリーダーです♡

ごゆい

人を惹きつける不思議な力を持ちフットワークの軽さはピカイチ！若いベテランキャンパーです！

けいすけ

ゆるそうなんだけど、全然ゆるくない。そのギャップがすごく居心地良いし、みんなが付いて行きたくなる魅力なんだと思う。くるみがリーダーで良かった！ありがとう。

ふにゃふにゃは相変わらず。けど最近色々な経験して、すごい成長してるなすごいな〜って思ってます。これからどんどん新しい世界に挑戦するんだろなあ。下見お疲れ様でした！

りょう

基本的にふわっとしてますし、言語化が下手です。でもなぜか彼女の思いは人を引きつけます。このキャンプでさらに大きくなることでしょう。(体重が)

フィリピン、中国、ネパールすべてのキャンプを経験した彼女は頼もしくなりましたが、老若男女に愛される軟体性は健在のようです。

あまね

ふわふわ系。だけどリーダーとして不思議な魔法の力でしっかりみんなをまとめてくれます！

ふにゃふにゃ系。だけど誰よりも人のことを考えて行動できる素敵な子です！

あやか(会計)

見た目も喋りもふわふわしてて心配になるけど、実はしっかり者。頼りにしてます。

わが妹。ゆうにタメ口を使ってもらうことが、私の卒業までの目標です。

りこ

ふわふわ、可愛い、優しいお姉ちゃんみたい！

ニコニコ笑顔が素敵！頼れる先輩🍀

こうへい(国内係)

お肉大好きくるみ🐿️  
だいたい、くるみワールド全開ですが、芯の強さも感じます。

フットワーク軽く、太陽の様な明るい社交性で友達たくさん。多様性があります。

あいな

キャンプリーダー野中。  
のなか、のなか…近すぎて今さら何を書こう…

ここぞという時、頼りになるスーパー2年生。  
持ち前の好奇心と行動力で、2年夏にしてネパール・フィリピン・中国と3キャンプを制覇！  
かわいい笑顔を武器にコミュニケーション能力にも長けており、春キャンプでも活躍すること間違いなし！



FIWCKyushu

To be continued...